

2024 年 10 月 30 日
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
渋谷 健

第 30 回「新しい資本主義実現会議」コメント

過去 3 年間、新しい資本主義実現会議から生じた重点施策により、世界から見る日本に著しく変化があったという実感があり、石破政権において、このモメンタムが加速することを強く要望する。特に以下の三点が、世界の観点から注目されたと思う。

I. 新 NISA の更なる活用で次世代国民の資産形成を促す

- ◎特に、つみたて NISA 改正は多くの若手世代による長期的な資産形成の意欲を高めた。一方で、海外株式 ETF へ投資先が偏っており、海外事業に積極的に展開する日本のグローバル企業へのアクティブ・ファンドへの投資でも世界の成長を取り込めるという選択肢があることを、新設された J-FLEC（金融経済教育推進機構）などの活動を通じて全国に広めることが重要。
- ◎また、短期的な利益にとらわれず、企業と投資家のより建設的な「対話」を通じて財務・非財務の包括的な企業価値の可視化を増進する、双方の「エンゲージメント」の質の向上を促進すべき。

II. 人的資本による企業価値の可視化の向上

- ◎日本発の「人的資本の向上」の着眼点は、ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）の次期検討事項など世界を動かした。およそ 150 年前に途上国であった日本は、人的資本の向上により数十年かけて当時の先進国の仲間入りを果たした。敗戦後の焼け野原から世界第二経済大国を築いたことも同様。明らかに新しい時代に入っている現在の日本に

第30回「新しい資本主義実現会議」コメント

において、人的資本の向上は不可欠であり、日本企業と社会の価値創造の源であるということ
とを石破政権でコミットメントを示していただきたい。

◎ 人的資本の土台は健康な国民である。日本政府が企業と協働して10年以上取り組
んでデータで示す「健康経営」は世界では希な実績であり、国外発信の意識を更に高める
べきで、企業の従業員の身体の健康のみならず、メンタルヘルスを支える対策の予算化も
検討すべき。

III. インパクト投資は「論語と算盤」の現代意義

◎ 新しい資本主義とは、「取り残さない」包摂性ある資本主義である。日本政府の経済政
策のグランドデザインに、環境・社会課題の解決の意図と財務的リターンを両輪として求める
「インパクト投資」が明記されたことで、この二年間あまりで大企業・大手金融機関の取り組
みが高まり、世界のインパクト・コミュニティから注目を浴びている。来年はGSG Impactとい
う世界40か国強に広まる「インパクト投資」ネットワークのトップ・リーダーの総会が日本での
開催が内定されている。「インパクト投資」とは、言い換えれば、日本の資本主義の父が提
唱した「論語と算盤」の現代意義であり、このモメンタムは決して緩めるべきでない。

◎ 今年6月の方針で明記された「インパクト投資をはじめとする民間資金が自動的に流入
するエコシステムを作り、日本企業にも新たな投資機会を創出するための「触媒」としての
ODAを活用すべく、制度の見直しを進める」ことは、世界における日本のプレゼンスを高める
ために極めて重要な戦略的政策であり、具体的な制度改正を早期に実施すべき。